

## 第6回 北広島市長期総合計画審議会 議事録

\*\*\*\*\*

■日時 平成22年1月20日（水） 18：00～20：00

■会場 芸術文化ホール活動室1.2

### ■出席委員

村山紀昭会長、伊藤寛部会長、杉本修部会長、長井敏行部会長、麻生昌裕委員、  
宇田川留美子委員、内手進委員、鶴木一任委員、遠藤智恵子委員、大川壽雄委員、  
大木克夫委員、大谷恵一委員、桂裕章委員、川島光行委員、小池隆史委員、斎藤冽委員、  
三瓶徹委員、鈴木康熙委員、根岸敏子委員、藤野伸之委員、榎武弘委員、森國聡委員、  
森永正造委員、吉田俊一委員、吉田正男委員、岡本若子委員、富田忠行委員

### ■欠席委員

穴田廣光委員、岡喜美江委員、菊池重敏委員

### ■事務局

高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、  
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

### ■傍聴 1名

\*\*\*\*\*

## 1. 開会

欠席委員および配布資料の確認を行った。

## 2. 会長あいさつ

【会長】重点プロジェクトについては、市民と行政が協力して取り組んでいく旗印として、今回掲示されている。また、各地区の方向性は基本計画というよりは、各地区の特徴と大枠での方向性のみを掲示しているが、新しく追加されている。指標については他市町では取組みが進められているが、北広島としては初めてとなる指標による管理を行っていくということで掲示している。来月3日に審議会としての原案を確定するという事になっているので、今日、初めて見る文章もあると思うが、今日の議論で足りないところは次回会議の前までに事務局に寄せてもらい、最終の審議会での案につなげていきたい。3時間半の部会長会議を経て、事務局ががんばって今日の資料を用意してくれている。まとまった形で掲示されると意見を言いにくいかもしれないが、できる限り活発なご意見をいただきたい。

## 3. 議事

事務局から、総合計画（案）全体について、順に確認を行った。

【会長】かなり全体のトーンが変わっている。最初にお話をしたように、「わかりやすい計画」にするために、かなり修正した。

**【委員】** 15～16 ページの進行管理等の記述は、市民にも好感を持ってもらえると思う。計画策定の趣旨の「わかりやすい計画」という点については、他の計画との位置付け、関係性をもっとはっきりと示した方がいいのではないかと。市民の意識については、現在の意識はわかるが、残念ながら過去 40 年間の積み残しについてはわからないままである。世代別の人口構成も示していく必要があるのではないかと。財政的な基盤にもなるので、重要だろう。「めざす都市像」と「都市計画マスタープラン」との整合性はあるのか。

**【会長】** 他の計画との関係については、1 ページ目ではなく、15 ページの冒頭に基本計画を上位に置く旨を記載すればいいだろう。人口については、世代別人口は 88 ページに指標として入れてある。ただ、人口推計というのは当たるものではないので、どこまで考えていくかは難しい。過去 40 年間の総括というのは、どこまで計画策定においてやるべきなのか難しく、そのまま盛り込むのは難しいと思う。この審議会の中での議論で、皆さんから「進行管理をしっかりやる」という強い意見を盛り込んでおり、それ以上はなかなか難しい。財源については、確かに入れ込んだ方がいいだろう。国の財政がどうなるかわからない状況下であまり勝手なことは書けないかもしれないが、「国等の動向に注視しながら、市の財源を確保することに努める」という程度の一文は入れた方がいいだろう。

**【事務局】** 他の計画との関係については、検討したい。過去 40 年間の積み残しについては、現計画の課題把握などを反映しているので、そこを斟酌してほしい。人口については述べたとおりだが、財政については推進計画では財源も含めての計画立てになるが、この段階ではひとつひとつの事業費を積み上げて考えるようなものではない。

**【委員】** 世代構成比が変わることで、財源的に厳しくなるといったことを考慮した文章を入れてほしいという程度である。積み残しの件についても、財源が厳しくなるということを受けて、行政依存ではなく、市民参加でやっていくことが必要で、「市も頑張るが市民も一緒になってがんばってほしい」という表現にしてもらえればと思った次第である。

**【委員】** 産業分野からお願いがある。16 ページ「政策評価」の部分で、産業経済に関しては、企業や事業主とともに地域産業の活性化に動いていかなければいけない。市民評価ということがでてくるが、市民の中に「法人」が含まれているのかどうか気になる。法人の考え、法人と行政との協働などは今後非常に重要だろう。

**【会長】** 視点としてはそのとおりだろう。重点プロジェクトで「にぎわい・魅力づくりプロジェクト」の中で産業の活性化についても触れているので、そこで検討したい。重点プロジェクトについては、計画で網羅しているのに意味がないという意見もあったが、私は象徴的な意味合いと、横断的に行政内部が連動する意味で重要だと思っている。厳しい社会環境のなかでも、少しでも人口を増やす、活気をつけるといったことのために、象徴的に協働で何ができるか、という想いを入れ込んで作っていく部分だと思う。

## 事務局から、重点プロジェクトについて説明。

【会長】これは本気のプロジェクトである。特にきっちりやらないといけない項目をまとめたものとなっている。単なる紙切れではない。やや観光偏重の感があり、私はイベントをもっとやらなければいけないと思う。市民自身が工夫して、それを行政が後押ししてやる。イルミネーションの道具を募集したところ、市民からたくさんの提供があったらしい。行政に任せるのではなく、自分たちで何かしようということが大事。ゴルフの石川遼が来たらトークしてもらおうような発想も必要ではないか。

【委員】「安心できる子育て」において「産科の誘致活動」と明記されているのが心強い。

【委員】18 ページ前文に「市民参加による進行状況の点検を進め」とあるが、具体的にはどのような考えを持っているか。

【事務局】プロジェクトの推進方法は非常に重要な事項だと思うが、今の段階ではまだ示せるようなものができていない。しかし、プロジェクトチームのようなものを、市職員と市民が協働でつくっていくのが適当ではないかと考えている。行政だけが推進するのはなかなか難しいだろう。

【会長】私も重点プロジェクトの進行管理は市民参加で行うべきだと考えている。

【委員】序論の「計画策定の趣旨」でも、市民が主体的に参加するということが書かれているので、ぜひその部分を実現できるようにしてほしい。

【委員】20 ページの「利用しやすい公共交通」で「だれもが利用しやすい公共交通の確保」とあるが、いつも議論に挙がっているものの現実的にはなかなか実現していない。具体的にはどうなのだろうか。

【事務局】交通に関しては、平成 22 年 3 月に協議会を立ち上げて、具体的な対策を検討する予定だったが、いまはまだ協議会が立ち上がっていないため明記できていない。

【委員】公共交通だけに頼らず、市民や民間が交通手段の確保に努めなければならない。

【会長】買物などもコンビニ宅配などが行われており、民間もいろいろなことを考えてやっている。公共交通に限らないような書き方を検討してもらいたい。

【委員】プロジェクトの語尾が「実施します」という強い表現になっているが、それを実際に実行していく市の体制というのはどうするのか。

【事務局】内部的にはまだ十分ではないが、担当部長や課長をリーダーにして、施策横断

的に作り上げるためのプロジェクトチームや場を設定すればいいのではないかと考えている。そのなかに市民の方々にも参加してもらえば、よりいいものになるのではないか。イメージとしてはそういうようなものを考えている。

**【会長】** 総合計画で「実施します」と断言するのは、非常に重たいものである。そのくらいの覚悟を持って書かれていると理解している。

**【委員】** 18 ページの「健やかな子どもの教育」の中の「子どもの農業体験等による心の教育や環境教育」というのはやや具体的すぎる。このまま学校に下ろされてもちょっと困るだろう。「農業体験や職業体験といったキャリア教育」といった表現はどうか。

**【会長】** 学校教育で列挙している項目の順序を入れ換えた方がいいかも知れない。

**【委員】** 一番大変だと思ったのはプロジェクトの「2 にぎわい・魅力づくり」。今の市の現状を考えると、本当にできるのか少し疑問に思う。アイデアとしては、札幌市のような大都市が隣接していることから、道の駅の建設検討や、JR 駅周辺の活性化、食べ物に関する魅力づくりなどが必要だろう。

**【会長】** 部会でも道の駅の議論はあった。

**【委員】** 高速道路のパーキングを道の駅にするなど、いろいろな手法はあると思う。

**【会長】** 大曲にアウトレットモールができて交通状況等も変わるだろうから、検討してみたい。観光というよりは近隣の市町村からの交流人口を引っ張ってくるというような視点を常に持って、もう少し明確にしていって方がいいのではないか。

**【委員】** 20 ページ「住みたくなる地域づくりプロジェクト」の「(1) ともに支えあう地域づくり」において、「町内会・自治会の加入の促進」をもう 10 年間くらい言い続けてきたが、減っている状況に対し具体策はあるのか。全体的に高齢者に関して総花的に書かれているように思うが、具体的にこうやっていくという策がないのであれば、並べても意味がないと思うので、やれるものをしっかり書いた方がいい。

**【会長】** 医療について表現上もう少し具体的に書けないかと思ったりもするのだが。

**【委員】** 医療も大変だし、介護もかなり力が入っているが、どうしても個々人の力の問題になる。専門化しているドクターは、他の分野に視点が行きにくい。他分野にまたがっている組織であればいいのだが。医師会の中でも問題になるが、診療所に委託をして、町の診療所を守っている自治体がたくさんある。なかなか理解されないかもしれないが、産婦人科の問題が取りざたされる昨今、市が施設を用意して、委託開業を求めて産婦人科のドクターを呼ぶといったことを、行政、市民、医師会全部が納得できればできるが、

いろいろなことを考えると難しい。医療とは関係ないが、今策定している計画が現行の計画とどのようにポイントが変わっているのか、ということを説明してもらいたい。自分のなかで比較ができていない。おぼろげながら、人口が減り、財源が減り、右肩上がりではいけないという状況は分かるが。

**【事務局】** 人口、経済が右肩上がりから今回は人口減少に転じたというのが一番大きなポイントである。これまでは大雑把に言えていたことが、これからはもっと現実的な目線で考える必要が出てきたというのがポイントだろう。また、市民協働がこの10年間でかなり進んだので、それを軸に据えたのが大きいと思う。

**【委員】** 審議会に参加して大変いい勉強になった。

**【委員】** 前回の計画よりかなり厳しい内容になっているが、大いに期待したい。

**【委員】** 部会で発言したことは概ね盛り込まれたと思う。市の持つ機能をフルに生かそうとする姿勢が見える。

**【委員】** 人口計画が盛り込まれたのありがたい。すべての計画の基本は人口なのでうれしかった。その点で骨組みができたように感じている。あとは市民参加による進行管理ということも盛り込まれたので、大変いい計画になるのではないかと思う。

**【委員】** 素晴らしい計画のように思うが、各論に落ちたときが大変だという印象を持っている。5ページの「2 定住の意識」において「市外に移りたい」という割合が高くなっているというのは、人口増加を考えている市にとっては、残念な結果だとは思う。

**【委員】** 18 ページ「(2) 健やかな子どもの教育」の「子どもの農業体験」に関して、離農跡地を役所が買って、体験農場のようなものをつくり農業体験をさせているのをデンマークで見たことがある。市にもそういった土地が出てくると思うので、こういった取り組みも検討してもらいたい。

**【委員】** 19 ページの「にぎわいの創出」も大事だが、公共交通機関だけではにぎわいのあるところに出て行けない。にぎわい創出に伴って、交通利便性を検討してもらいたい。西の里から大曲に行くような便が特にならない。

**【委員】** 同じく、「にぎわい創出・交流促進」について。歩くということが今注目を集めていることから、フットパスといった視点で何かできれば人を呼べるかもしれないので、盛り込んでいくことも検討してほしい。そうすると行政ばかりに頼らず、市民が協力して、健康増進できる。

**【委員】** 18 ページの「子育て支援」のいろいろな取り組みは非常にいいと思う。ぜひ実現し

ていってほしい。「産科の誘致」に関して言うと、産科医なのに内科医をやっている方がいて、なぜ転業したかを尋ねると「産科では他の医療機関につなげるパイプがなく、責任が持てない。もし、行政がバックアップするならばやるかもしれない」とのこと。医療機関のネットワークが大事ではないか。20ページの地域交通に関しては、やはり足がなくて行けないという声大きい。なんとか工夫してほしい。

**【委員】**重点プロジェクトの1と3は行政と市民が真剣に取り組めば何とかできると思うが、「2 にぎわい・魅力づくり」は難しい。これこそがこの計画のポイントになりそうだと感じる。今は歴史や伝統に依存しない新しい観光資源をつくりだす時代である。

**【委員】**特に関心があるのは、20ページの「ともに支えあう地域づくり」である。総合計画のなかでどれだけ具体的なことを書き込めるのかわからなく、福祉等の計画もいろいろとあるが、そういった支え合う地域づくりの担い手の中心は誰なのかというのが重要である。担い手をネットワーク化していくために、行政や社会福祉協議会が協力してほしい。もう少し突っ込んだ手立てをまとめていただけるとありがたい。

**【委員】**とても残念なことは、市民説明会の参加者が少なかったことである。この場の審議会の熱い思いが市民に伝わっていないのが残念である。

**【委員】**私自身は成熟都市というイメージで考えていたが、やはり明るい未来を見せなければいけないのだろうと感じている。

**【委員】**個人的には重点プロジェクトは「1 子育て支援・人づくり」と「3 住みたくなる地域づくり」が重要ではないかと思う。それは、これらが10年前にも同じ問題が出ていたからである。これが多少は変わっているにしてもまだ問題となっているなかで、今回重点としてもらったので、さらなる改善に期待ができるのかと感じている。

**【部会長】**10年前の現行計画からみると、様々な点で優れている。分野横断的に総合的な成果を目指すということが一つ。そして、行政側で横断的に考えるという視点が最初から入っている。そしてそれは行政組織の活性化につながる。その進行管理に市民が加われば、市活性化の起爆剤になるのではないかと期待している。

**【部会長】**右肩下がりの社会の中で、鍵になるのは市民がまちづくりに参加する仕組みをつくれるか否かだと思う。行政がすべてやるのではなく、市民が意識的に出ていく環境をつくるのが大事だろう。それが計画のなかになじみ出ているように思う。

**【部会長】**審議会は30人いるが、後ろに優秀な事務局がいるからこそ、ここまで組み上がっているのだと思う。私は重点プロジェクトについては1と3は高く評価する。2「にぎわい創出」は最大の目玉だと思っており、具体的な取組みをもっと盛り込んでほしいと思う。

**【会長】** 今日の見解を踏まえて、事務局で再度整理し検討してもらいたい。地区別の基本方向、指標に関する議論はこの場では割愛させてもらいたい。原案についてのご意見ご質問は、電話・メール・FAXで直接事務局に1月27日までをお願いしたい。

#### 4. 次回審議会の日程

次回審議会は2月3日に実施することが確認された。

#### 5. 閉会